

JIA 建築展 vol.17 (第45回まちづくり研究セミナー)
ワークショップ報告書



公益社団法人 日本建築家協会九州支部北福岡地域会

■ ワークショップ（2015年10月3日, 10月17日, 10月31日, 11月1日）

会場

AIM 2階 エイムスクウェア
AIM 2階 ガレリア
西日本工業大学 大学院 プレゼンテーションラウンジ

■ 会員作品展他（2015年10月3日～11月15日）

会場

AIM 2階 エイムスクウェア

■ セミナー・ワークショップ講師（2013年度・2014年度 JIA新人賞受賞者）

原田真宏・原田真魚（MOUNT FUJIARCHITECTS STUDIO）
永山祐子（永山祐子建築設計）
長田直之（有限会社ICU一級建築士事務所）

■ ワークショップ参加校

北九州市立大学	11名（3チーム）
九州工業大学	6名
西日本工業大学	9名
近畿大学	5名
九州産業大学	9名
日本文理大学	6名
東西大学（韓国）	14名（2チーム）
釜山大学（韓国）	9名
東亜大学（韓国）	5名
新羅大学（韓国）	12名（2チーム）
<hr/>	
参加学生 合計	86名（計14チーム）

■ スタッフ

三迫 靖史（JIA北福岡地域会会長）
服巻 良樹（JIA北福岡地域相談役）
浅田 典生（まちづくり研究セミナー事務局代表）

実行委員会

満井 輝吉（実行委員長）
永澤 正哉 戸村 一樹 松島 逸人 杉野 友紀
塩釜 直人 高橋 雅彦 小原 光晴 加藤 史衛
金子 英造

アドバイザー

尾道健二 岩下陽市 福田展淳 佐久間 治 石垣充

■ ワークショップ概要（1日目、2日目）

10月31・11月1日両日にわたり、AIMにおいてワークショップが行われた。課題は昨年の延長線上で「まちなかスタジアムの活用とまちづくり」とし、場所をスタジアムへのメインルートとなる AIM ビル 2 階に限定し、小倉駅新幹線口の賑わいづくりに寄与するデザインを提案した。

初日は ワークショップ会場にて建築家の原田真宏さん、長田直之さん、参加校の教授、JIA 会員が、作業中の各チームテーブルを廻りながら学生たちの提案を受け、意見を交わし合いながら作品の精度を高めて行った。

二日目は前日の意見も取り入れた各々の作品を発表した。クリティークでは学生が熱心に発表し、講師の建築家と活発に意見を交わし通りががりの市民も熱心に耳を傾けている様子が印象的だった。

■ ワークショップ全日程

10月3日(土) セミナー(場所: AIM 2階 エイムスクウェア)

参加者 135名

- | | |
|----|---|
| 講師 | 永山 祐子（永山祐子建築設計）
セミナータイトル：「建築というきっかけ」 |
| 講師 | 原田 真魚（MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO）
セミナータイトル：「マウントフジの建築」 |
| 講師 | 瀧上 忠彦（北九州市建築都市局 都心・副都心開発室 スタジアム整備担当課長）
スタジアム及び周辺整備概要について |

セミナーでは、2014 年度 JIA 新人賞受賞者の永山氏・原田氏から自身の建築作品の紹介を通じて建築への取組みについて語っていただき、学生から多くの質問が寄せられた。続いて今回の課題に対する説明が行われ、KIPRO の山家課長から AIM ビルの現況と課題について、北九州市の瀧上課長にはスタジアム及び周辺整備概要について説明していただき課題についての認識を深めていった。

その後事前に検討してあった各チームの素案についての検討会が行われ、6 チームから提案の素案について説明があり、講師の先生方や KIPRO の山家課長および会場の先生方からご指導をいただき、提案作成に向けて有意義な時間であった。



10月17日(土) プレワークショップ(会場:西日本工業大学大学院 プレゼンテーションラウンジ) 参加者 46名
参加: 北九州市立大学 3 チーム,九州工業大学,西日本工業大学,九州産業大学,近畿大学

各校が提案コンセプトを発表し、講評者と意見交換を行なった。

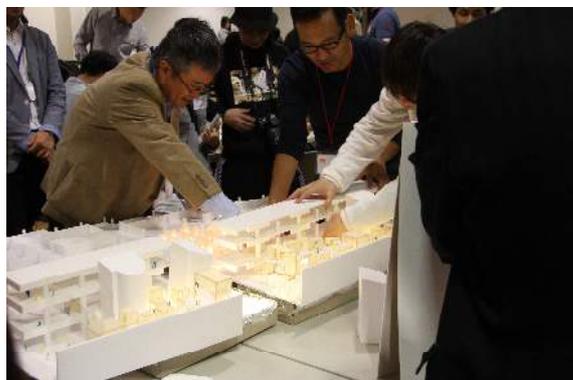


最終作品の精度を上げるため、例年より1週間早くプレワークショップを開催したが、参加校も例年より多く7チームが参加し、先生方やJIA会員と活発な意見交換を行い最終日のワークショップ本番に向けて有意義な会となった。

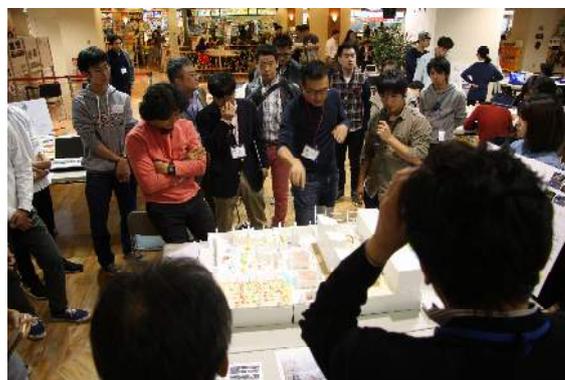
10月31日(土)ワークショップ1日目 (会場: AIM 2階 エイムスクウェア) 参加者 125名

■ワークショップ1日目

講師の各先生や参加校の教授、JIAスタッフが各チームのテーブルを廻り、活発に意見を交わした。先生方の意見を参考にして最終日のクリティークに向けて日本の学生は各大学で、韓国の学生はホテルで最終の仕上げを行った。



北九州大学-1



北九州大学-2



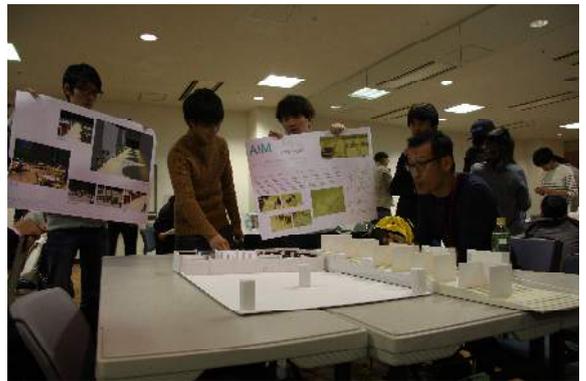
北九州大学-3



西日本工業大学



九州工業大学



近畿大学



日本文理大学



九州産業大学



釜山大学



東亜大学



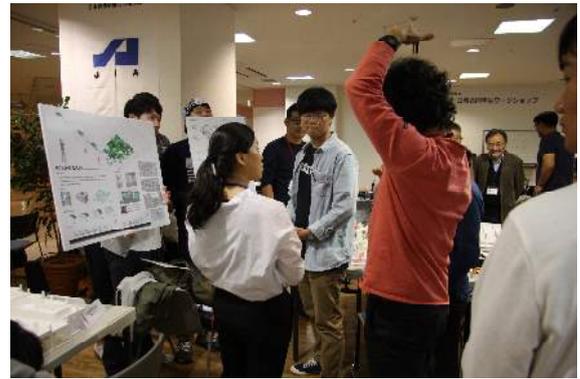
東西大学-1



東西大学-2



新羅大学-1



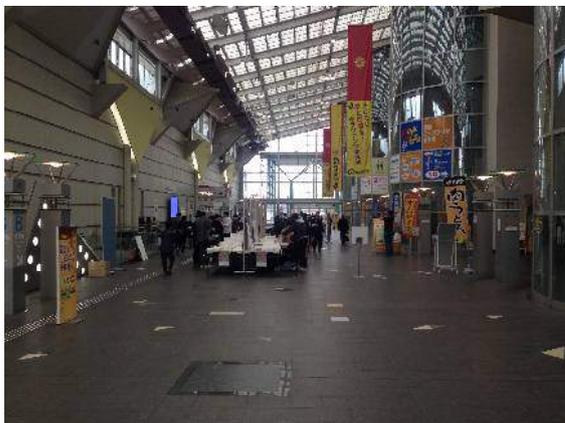
新羅大学-2

11月2日(日) ワークショップ2日目:クリティーク (会場: AIM 2階 ガレリア)

参加者 112名

前日の最終仕上げの疲れが残る中、完成作品の発表およびクリティークが行われた。日本、韓国及び中国からの留学生が発表し通訳を入れながら進められ国際色豊かなクリティークとなった。

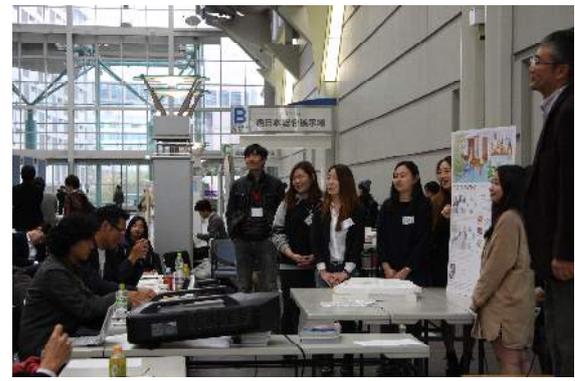
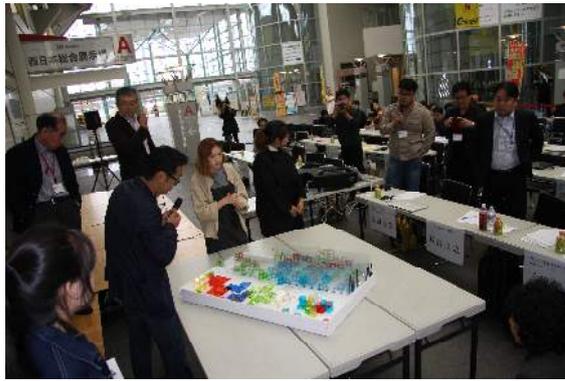
講師の先生や各大学の先生方からの質問や指導を交えて約8時間にわたって行われた。また会場となったガレリア内に作品を展示し、通りがかりの市民に説明を行った。



会場全景



作品展示



■ 提案作品（発表順）

① 北九州市立大学 1（赤川研究室）



（提案）ヨクラノカクレガ

AIM ビルが駅裏であることを逆手にとって、カクレガとしての集客を提案している。
集客のためのツールとして灯籠の明かりを点在させ魅力あるスペースを提供している。

② 新羅大学 1（韓国：洪研究室）



（提案）SPACE&FRAME（CATALYST in URBAN）

ガレリア及びテナントスペースに、ユニットフレームによる大人や子供のためのカルチャー
エリアを提供している。

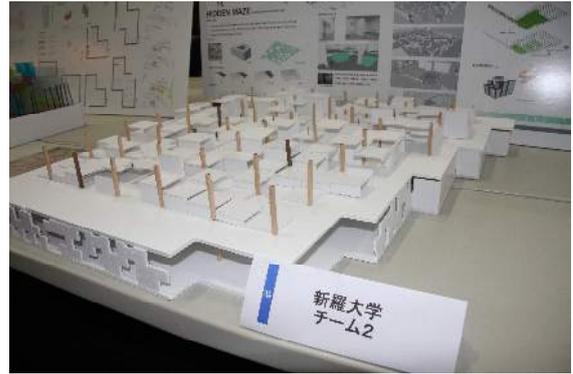
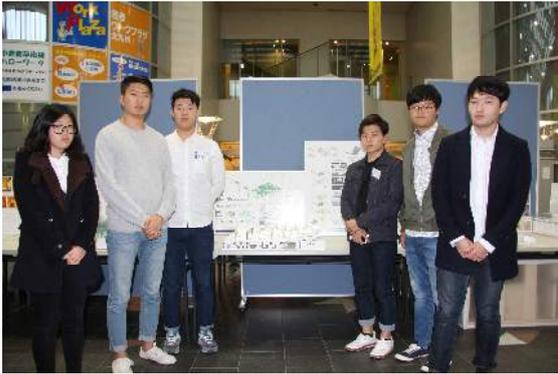
③ 北九州市立大学 2（バート研究室） ☆JIA 賞



（提案）CAMP IN

AIM ビルの特性を調査しターゲットを、サッカー観戦に訪れる親子連れ・アウェーのサポーターや日常のビジネスマンにしぼりゲストハウス・アスレチック・フィットネスを提案。

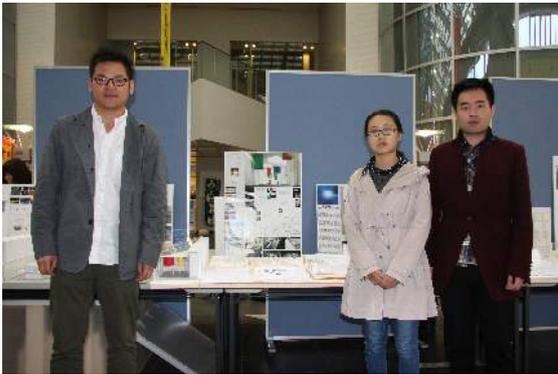
④ 新羅大学 2 (韓国：洪研究室)



(提案) HIDDEN MAZE

レベル差のある床や、動く壁で居場所を構成しあたたかも迷路のような隠れ家を用途に応じて提供し、人々の居場所を提案している。

⑤ 北九州市立大学 3 (福田研究室)



(提案) 光の遊び

サッカー観戦前後に施設を利用することを想定し、現状の均一な光ではなく多様な光 (ボイド、のれん、格子) の効果により観戦者の疲れや、プレッシャーをいやす効果を提案

⑥ 東亜大学 (韓国：呉研究室) ☆長田賞



(提案) WALL or ANYTHING

柱によって構成されるグリッドのなかに、ユニット化した壁でさまざまな場所を作り多様な人のニーズに対応する居場所を提供している。

⑦ 近畿大学（益田研究室）



(提案) 空間と動線

ガレリアをスロープ状の階段とすることで、大人数の移動をスムーズに行い隣接するテナントスペースに人を誘導する仕掛けとしている。

⑧ 東西大学 1（韓国：呉研究室）鄭研究室



(提案) OUT to INSIDE 「内部で接続」

斜めに交差する、壁によってパサージュを作り、それによって仕切られた開放的な空間に様々な機能を持たせることによって、施設を活性化する提案。

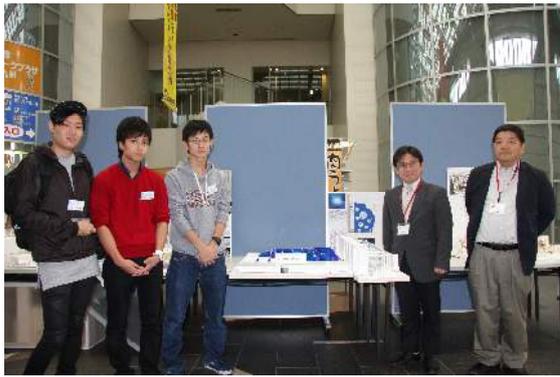
⑨（九州産業大学（矢作研究室）



(提案) いきかうまち

AIM・スタジアム・コンベンション施設で行われる多様なイベント時の動線となるため、仕掛けとしてスクリーン状の壁を設けて、人が佇める場を提供し施設の活性化につなげる提案。

⑩ 日本文理大学（管・近藤研究室）



（提案）海中広場

ガレリアを「海岸」、AIM テナントスペースを「海」とみだててパブリックビューイング施設とスポーツバーを提案。海と見立てた部分は濃いブルーのインテリアで構成。

⑪ 東西大学 2（韓国：呉研究室） ☆AIM 賞



（提案）PLACE BRANDING

日本の文化を満喫するためのスペースとして、足湯、茶室、陶芸、音楽のコーナーを設け海外からのゲストを迎える仕掛けを提案。

⑫ 九州工業大学（佐久間研究室） ☆KIPRO 賞



（提案）小倉 AIM グリーンウォーク&ヒルサイドテラス

ピッチを連想させる緑化されたガレリアと緑の丘で構成されたテナントスペースと 3 階の子育て支援施設を吹き抜けとアスレチックで立体的に連結し施設を活性化させる提案。

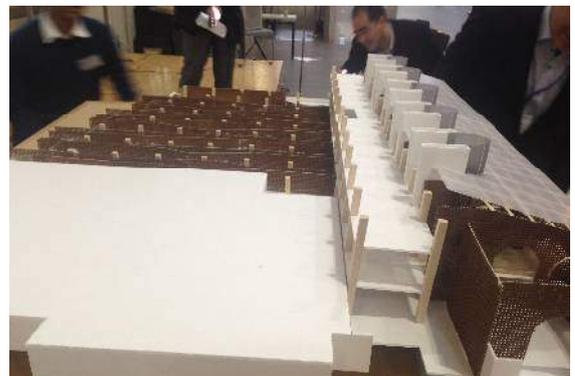
⑬ 釜山大学（韓国：劉研究室）



(提案) The Urban Raum

柱スパンを、3分割したキューブで構成されたスペースを可動間仕切りで構成しながら閉じた空間、開かれた空間、中間的な空間によって人を引き付ける空間を提案している。

⑭ 西日本工業大学（石垣研究室） ☆原田賞



(提案) 鉄の洞窟

ガレリアを洞窟化することにより暗がりから、明るいテナントスペースに向かう動線を明確化し人を惹きつける魅力ある空間を提案。

■ 受賞作品講評

KIPRO 賞 : 九州工業大学 **講評者** : KIPRO 山家将宏 課長

環境都市『北九州』にマッチしたすばらしい作品でした。スタジアムの芝と空間いっばいに広がった緑が見事に調和され、スタジアムまでの道のりを癒されながら歩けるグリーンウオークに仕上がっています。与えられた課題もしっかりと作品の中に織り込まれています。

AIM 賞 : 東西大学 2(韓国) **講評者** : KIPRO 山家将宏 課長

日本人の好みをよく研究し、癒し空間を見事に演出した作品でした。人の賑わいよりも安らぎや伝統に重点を置き、別の角度から集客というキーワードを見つけています。

原田賞 : 西日本工業大学 **講評者** : 原田真宏 先生

どこか無記名な、あてどない空気の漂う操作対象のテナントフロアやガレリアの空間に対して、無数の錆の発生した鉄板～実際、何トンに及ぶのだろうか～という「強力な物性」を導入することで、リアリティの世界へとアンカーすることを試みた提案。

この「鉄」は港湾の風景に散見され、対岸には新日鐵八幡製鉄所があるように、場所性に根ざしたものでありデザインボキャブラリーとして適切だろう。空間的にも、アクセスを呼び込むべきガレリアに対して、直行するように配列される細長い空間が顔を出し、奥への誘導性を高めている。そのほか、ガレリアを見下ろすオルセー美術館のようなカフェのテラス席も都市的な賑わいの風景を生み出しており、大胆であるだけでなく、様々に魅力的な側面が見出される提案と評価した。

ただし、作者たちも自覚している通り、その物量故の予算の高さ、言い換えれば、エフェクト/エフォートのバランスには問題があり、提案内容へのフィードバックがなされるべきだったろう。これは実施される建築であるが故の気付きだろうし、強度のある建築へと至る必須のプロセスでもある。この経験を糧にして、より高いレベルを目指して欲しい。期待しています。

長田賞 : 東亜大学(韓国) **講評者** : 長田直之先生

東亜大学のチームの提案は、既存の建物の均等なグリッド状に配置された柱に注目しそこに可変性のある壁や、窓、フレームといった建築的なツールを用意することから始まっている。それぞれのショップやスペースは、これらの建築的なツールを使いながら思い思いの空間をつくることができる。というだけであれば、よくある学生の提案なのだがこのチームの案で僕が良かったのは、そのように自由に組み立てるツールとは別に、それぞれのエリアに設けられた余白一広場？が存在することである。

自由に絵を描くことの出来る場所と余白。この関係性がお互いの関係を豊かにするように思えた点が素晴らしいと思う。

JIA 賞 : 北九州市立大学 2

講評者 : 三迫 靖史(JIA 北福岡地域会会長)

「まちなかスタジアムの活用とまちづくり」という課題に対して、ストレートに回答してくれた案として評価したい。地元サポーターにとってしやすい場所の提案、またアウェイのサポーターにとってはゲストハウスの提案もありがたい。この場所がサッカーだけでなくスポーツに関わる全ての人たちの情報交換の場であることを望みたいが、日常的にはどうあるべきか、もう少し探ってほしかった。

■ クリティーク総評者(総評順)

原田 真宏 先生 (MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO)

長田 直之 先生 (有限会社ICU一級建築士事務所)

山家 将宏 課長 (株式会社 北九州輸入促進センター)

三迫 靖史 (JIA 北福岡地域会会長)

尾道 建二 名誉教授 (九州共立大学)

岩下 陽市 先生 (株式会社クロスポイント 地域デザイン研究室 主任研究員)

下山道夫 (JIA 九州支部副支部長)

石川幸男 (JIA 鹿児島地域会会長)

Jeong Heewoong 教授 (東西大学(韓国))

Oh Gi Whan 教授 (東西大学(韓国))

Yu Gea Woo 教授 (釜山大学(韓国))

Kim Jun 教授 (釜山大学(韓国))

Oh Seong Heon (東亜大学(韓国))

Hong Juhg Howan 教授 (新羅大学(韓国))

益田 信也 准教授 (近畿大学)

近藤 正一 教授 (日本文理大学)

佐久間 治 教授 (九州工業大学)

石垣 充 准教授 (西日本工業大学)

■ 作品展示他 (2015年10月3日～11月15日、AIM2階 エイムスクウェア)

ワークショップ作品展示



JIA 2014年新人賞作品展示

永山祐子
(永山祐子建築設計)
作品名 : 豊島横尾館

原田真宏・真魚
(MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO)
作品名 : Shore House

JIA 北福岡地域会会員作品, JIA 宮城地域会復興支援活動資料, 新国立競技場関連 展示

JIA 北福岡地域会会員 出展者名

安東建築設計事務所
北九州市立大学福田研究室
㈱スズキ設計
平建築設計事務所(有)
㈱高橋環境建築設計
㈱東畑建築事務所
㈱東洋アンドアソシエイツ
㈱豊川設計事務所
PRAISE 一級建築士事務所
㈱満井設計

■ 事業の成果

・セミナー

今回で17回目を迎えたセミナーは、昨年に引き続き2014年度JIA新人賞（永山氏、原田氏）を二組ともお招きし、140名余りの参加者に対して行われた。

参加者は、建築関係者のほかに学生、一般市民が参加し特に学生に対しては建築家から建築に対する考え方や実際の取組みについて丁寧に説明がなされ終了後には意見交換が行われた。学生にとっては、活躍中の建築家に接するまたとない機会となり教育効果が期待される。一般市民に対しては、建築設計に関する理解を深めていただくとともに北九州市でのまちづくりに理解を示していただける機会となったと考えている。

・日韓合同学生ワークショップ

昨年度のワークショップではテーマを「まちなかスタジアムの活用とまちづくり」として、2017年に完成予定の北九州スタジアムの整備に併せて小倉駅新幹線ロエリア全体を対象にしての提案を行ったが、今年度は場所をスタジアムへのメインのルートとなるAIMビルに限定し、新幹線口の賑わいづくりに寄与する施設としてガレリアと1.2階のテナントスペースのリデザインの提案を行った。

日本から6大学、韓国から4大学、先生方と学生を合わせて100名近くが参加し、提案に対して建築家から熱心に指導が行われた。ワークショップ初日の内容から最終日のクリエーション時には素晴らしい作品に仕上がった。学校での教育とは一味違う指導をいただき学生にとってはまたとない教育の機会でありこれを機に今後のさらなる成長が期待され、大きな教育効果があったと考えている。

今回は事前に韓国を訪問し先生方と意見交換を行ったこともあり、さらに親密に交流が出来たこと又、次世代につながる新しい先生方も来日され今後のワークショップの新たな展開も期待され、今後ますます学生を含めた日韓の交流が円滑になることが期待される。

参加した建築関係者・学生はほとんどが若手でありこの機会を通じてまちづくりへの関心をますます深めていき北九州市のまちづくりの担い手となることは間違いない。

会場をオープンな場所に設定したこと、その場所が提案対象となっていたことで一般市民にも関心を持ってセミナーやワークショップに間接的ではあるが関与していただき、建築を通してまちづくりに関心を持っていただくまたとない機会となったことは非常に意義あることである。

また会場を提供していただいたAIM関係者の皆様に心より感謝いたします。